

都道府県別賞一等

会えないままのお別れ

高知県 高知中学校 一学年

近澤 幹友

昨年十二月、僕の大好きだったおばあちゃんが亡くなりました。おばあさんは数年前から施設に入って暮らしていました。僕が赤ちゃんのときから写真をたくさんとってくれて、アルバムにするのが趣味でした。

しかし、新型コロナウイルスの影響で、なかなか会うことができませんでした。会えるのは年に数回の短い面会だけ。パーテーション越しに話したり、マスクをして距離をとって会ったりしました。おばあちゃんの誕生日のお祝いに行った日が最後になるとは思いませんでした。

お葬式のあと、家族で集まっていたときに、おばあちゃんが生前から生命保険に入ってくれていたことを知りました。思っていたよりもずっと大きな額で、両親は「本当にありがたいね。」と言っていました。

その保険金は、施設での生活費やお葬式代にもなるし、残された家族の生活にも余裕を与えてくれました。悲しかったけれど、「お金がなくなったらどうしよう。」という不安がなくなりました。僕はそのとき、生命保険はお金だけでなく、安心も残してくれるものだと思います。おばあちゃんにはあまり会えなかったけれど、ずっと僕たちのことを考えてくれていました。

生命保険は、残された家族が生活を続けられるようにする役割があると分かりました。

おばあちゃんは、自分がいなくなった後も家族が困らないようにと、長い時間をかけて準備をしてくれていました。本当にありがたいと思いました。

おばあちゃんの息子でもある僕のお父さんは、タバコを吸うしイビキもかきます。また、仕事で県外に車でよく行くので、事故にあわないかいつも心配です。保険はありがたいけれど、お別れは悲しいので、いつまでも元気でいてほしいです。

将来、僕が大人になって家族を持ったとき、健康に気をつけるのはもちろん、「もしものときの備え」をしておきたいと思います。生活費や教育費だけでなく、家族が安心して毎日を過ごせるような環境を作ること。そのためには、日々の生活で健康に気をつけたり、家族で話し合ったり計画を立てたりすることが大切だと思います。

悲しいけれど、家族を守る安心を残しておくことが、生きる上で大切なことだと気付きました。生命保険の大切さを教えてくれたおばあちゃんに、心から

第63回中学生作文コンクール

感謝しています。

僕もこれからは、周りの人のことを大事にしながら、悲しいことがあってもみんなで助け合えるような、思いやりのある人になりたいです。そして、日々の小さな行動でも人を気遣ったり、家族と過ごす時間を大切にしたりして、少しずつでも安心と笑顔を増やしていけるように努力したいです。

このような作文を書くことで、生命保険について深く考えることができてよかったです。